

- 27-2-8-① 平成 27 年度 ME 技術教育委員会
- 27-2-8-② 第 21 回第 1 種 ME 技術実力検定試験
- 27-2-8-③ 一般社団法人日本生体医工学会 ME 技術教育委員会 委員等報酬内規 (案)
- 27-2-8-④ ME 技術教育委員会 新組織と運営管理システムの確認
- 27-2-9-① 平成 27 年度クリニカルエンジニアリング委員会
- 27-2-9-② 一般社団法人日本生体医工学会が実施する第 2 種 ME 技術実力検定試験を上海会場で施行する件についての覚書
- 27-2-10 平成 27 年度 ME 研究推進委員会
- 27-2-11 平成 27 年度医学科 ME 教育 WG
- 27-2-12 平成 27 年度利益相反委員会
- 27-2-13-① 平成 27 年度教育委員会
- 27-2-13-② 第 12 回生体医工学サマースクール準備状況
- 27-2-14 平成 27 年度選挙管理委員会 (案) 並びに選挙実施スケジュール (案)
- 27-2-15 平成 27 年度選奨委員会
- 27-2-16 平成 27 年度生体医工学科連絡委員会
- 27-2-17 平成 27 年度定款改定ワーキンググループ
- 27-2-18-① 平成 27 年度公益法人化対応 WG 委員会
- 27-2-18-② 日本生体医工学会公益法人化の作業に関して
- 27-2-19-① 平成 27 年度編集委員会
- 27-2-19-② 2015.8.4 理事会 編集関係 資料
- 27-2-20 第 54 回日本生体医工学会大会報告
- 27-2-21 第 55 回日本生体医工学会大会について
- 27-2-23 他団体との後援・協賛状況

<議事>

1. 理事会成立の件 (佐久間理事長)
 - 成立要件を満たしていることを確認し、開会を宣言した。
2. 第 1 会議事録承認の件 (佐久間理事長)
 - 議事録を確認した。
3. 入退会状況の件 (佐久間理事長)
 - 回覧資料および資料 27-2-3 にて入退会状況を確認した。
4. 広報委員会委員案承認の件 (野村副理事長)
 - 資料 27-2-4 の説明があり、委員案が承認された
 - 井村委員の所属について訂正があった
5. ①国際委員会委員案承認の件 (椎名理事)
 - 資料 27-2-5-①の説明があり、委員案が承認された
 - トロントで開催された WC2015 の報告があった
 - 次回 (2018 年) はプラハで開催
 - 2021 年はシンガポールに決定

- 2024年の開催場所はこれから
- 2024年への立候補準備を進めるが、アジアが続くため医用物理学会の代表と協議が必要
- 招致に向けて2016年の本学会年次大会で医用物理学会との連携が必要
- 合同シンポジウムなどの企画を検討する（中村大会長、椎名理事）

5. ②IFMBEのClinical Engineering Divisionの活動について（椎名理事）

- 資料27-2-5-②にてICE HTMCの案内があった
 - 日本のクリニカルカルエンジニアと若干異なる
 - 分野によっては重なる部分もあり、参加を促せる
 - 日本のクリニカルエンジニアに関しては後の議案で総合的に討論する

6. 医用生体工学研究基盤検討委員会委員案承認の件（山家副理事長）

- 資料27-2-6の説明があり、委員案が承認された

7. 大会在り方委員会委員案承認の件（山家理事）

- 資料27-2-7の説明があり、委員案が承認された
- 石原委員の所属について訂正があった

8. ①ME技術教育委員会委員案承認の件（島津理事）

- 資料27-2-8の説明があり、委員案が承認された
- ME技術実力試験問題作成委員会に関して以下の発言があった
 - 公益化に伴う透明性確保の観点から、委員案を理事会に提出して欲しい
 - 委員はできるだけ本学会であった欲しい
 - 新しい委員には数年間の活動後に入会を依頼している
 - M系委員・会員をどう増やすかについても今後検討する

8. ②第21回1種ME試験経過報告の件（島津理事）

- 資料27-2-8-②に基づき説明があり、合否案が承認された。

8. ③ME技術教育委員会委員等報酬内規（案）（島津理事）

④ME技術教育委員会新組織と運営管理システムの確認（島津理事）

- 資料27-2-7-③、④の説明があった
 - 資料として残っている報酬内規（案）である
 - 実際は事務局の指示に従っている
 - 資料と実態に乖離があるので、実態に合わせて内規を修正する
 - 財務との連携について、資料を担当理事に時々確認いただいていたが、継続性が不十分だった
- 関連して以下の発言があった
 - 財務担当理事はいるが、扱う金額が大きく大学教員が片手間にやるのは難しいので、別途依頼が必要ではないか
 - 試験委員会名簿は守秘性が高いので、理事会用の別資料として提出して貰い、回収するのが良い
 - 様々な内規を担当頂ける方について後半で報告する

9. ①クリニカルエンジニアリング委員会委員案承認の件（島津理事）

- 資料 27-2-9 の説明があり、委員案が承認された
- 認証を国際的にやる必要があるとの議論がでていることから、今後検討することとした

9. ②第2種 ME 技術実力検定試験を上海会場で施行する件

- 理事長より資料の配付と説明があった。
 - 日本との違いについて先方は最初から理解
 - 正式な合格でない
 - 文面の調整が9月までは難しい
- 関連して以下の発言があった。
 - 中国は資格化を推し進めているらしい
 - 国家レベルの資格を学会の資格にという流れ
 - 中国では学会長を国が指名するため、政治的な側面が強い
 - 戦略として中国の学会と正式に連絡を取った方が良いのではないか
 - 教育委員会は試験関連実務が中心のため、クリニカル委員会で議論した方が良い
 - 国際的などという話になると慎重な議論が必要
 - 日本の臨床工学技士に相当するものは中国にないため、そのまま移項できるか疑問
 - 先方は病院勤務者が受験することを前提としている
 - アメリカの CE の水準は日本より高いので、違いを認識して議論する必要がある
- 本件については、クリニカルエンジニアリング委員会にて議論して貰うこととした

10. ME 研究推進委員会委員案承認の件（橋爪理事）

- 資料 27-2-10 の説明があり、委員案が承認された
- 名古屋の年次大会にて開催した委員会の報告があった
 - ポスドクのポストとしての不安定性について議論
 - 人材育成の観点で人とポストを増やす必要がある
 - 文科省にも働きかける

11. 医学科 ME 教育 WG 委員会委員案承認の件（石原理事）

- 資料 27-2-11 の説明があり、委員案が承認された
- 委員会の活動について説明があった
 - テキスト作りが発端（更新難）
 - 授業・実習を撮影し、素材が出てきた
 - 委員の先生方に審議して貰う
 - 興味を持った方に無償で貸す（公開とすると著作権をどう得ておくかが問題になる）

12. 利益相反委員会委員の件（石原理事）

- 委員会設置の経緯説明があった
- 内規、雛形などを検討し、次回理事会にて諮ることとした

13. ①教育委員会委員案承認の件（総務）

- 資料 27-2-13①を確認し、委員案を承認した

1 3. ②サマースクールの準備状況について

- 資料 27-2-13②を確認した

1 4. 選挙管理委員会委員案承認および選挙日程の件（山森理事）

- 資料 27-2-14 の説明があり、委員案と日程案が承認された

1 5. 平成 27 年度選奨各賞選定委員長選出の件（総務）

- 資料 27-2-15 を確認し、委員案が承認された
- 公益性、透明性が重要であることから内規についても検討することとした

1 6. 生体医工学科連絡委員会委員案承認の件（総務）

- 委員会設立の経緯について情報を整理した
 - 高校生向けの入口対策
 - 臨床工学士とは別
 - 進路説明会などにブース
 - 臨床工学技士の国家資格が取れる学科は受験生が集まったが、そうでない学科には集まらなかったのが発端
 - 私立の工科系が主
- 関連して意見が多数述べられた
 - 生体医工学系活性化委員会など、名称について検討が必要
 - 研究職を養成する医工学系とカリキュラムが一致していないのか疑問
 - CE と生体医工学の関係性や方向性、本学会のアイデンティティをどうするかが課題
 - 医工学分野の教育と研究を本学会が担っており、担当できるリーダーを育てるのが使命
 - 財務的にはどこかで CE を取り込んでいく必要がある
 - 臨床工学技士の先生の多くは○号・博士号を持っていないため（全国でも 20 人未満）、10 年後に教授を担える人材がいなくなる懸念があり、Ph. D を育てる必要がある
 - 社会人大学院も含めて、CE の教育者・研究者を育てる役目がある
 - 現状は CE に対して研究を求めているのではないか
 - CE が 3 年から 4 年の課程になり、看護師と同様に学部・修士・博士と繋がっていくのではないか
 - 入学次にどれくらい勉強してきたかは重要で、マーケット的発想には反対である
 - 優秀な若手の先生に本学会に入ってきて貰うことは重要
 - CE で能力が伸びたとしても、それだけで教授は担えない
- 名称等について次回（10 月）理事会で検討することとした
- 事務局が吉田理事に連絡することとした
- 本件は学会の戦略に強く関わることから、別途議論することとした

1 7. 定款改定 WG 委員会委員案承認の件（佐久間理事長）

- 資料 27-2-17 の説明があり、委員案が承認された
- 公益法人になった際の定款を優先的に整えることとした

18. ①公益法人化対策 WG 委員会委員案承認の件（阿部理事）

- 資料 27-2-18-①の説明があり、委員案が承認された

18. ②公益法人化の作業に関して（阿部監事）

- 資料 27-2-18-②に基づき説明があった
- 事業申請書（案）が承認され、気がついた点がある場合には、9 月初旬の提出日までに事務局と阿部監事に連絡することとした
- 平成 27 年度決算における財務調整（案）が承認された
- 遊休財産額の調整（案）が承認された
- 関連して会費収入増への協力依頼があった
- 財務担当理事から補足説明があった
 - 来年度は予算と決算に大きな乖離が起きない財務体質に変えていく必要がある
 - 事業予想をしたうえで予算を申請して貰う必要がある
 - 1 月に翌年度の事業計画を立てる必要がある
- 議論の結果、以下の方向性を決定した
 - 財務担当理事に、内規の整理を含めたスケジュールを提出して貰う
 - 次回の理事会で今年度の計画を確定する
 - 来年度の予算は、大きな変更がなければ前年度額で計上する
 - 来年度の予算に変更がありそうな場合は、1 月までに理事会に提出いただく
 - 来年度から、1 月までに概算要求して貰う
 - 今年度は一般社団法人だが、予行練習をやり、全体のスケジュールを確認する
 - シンポジウムや年次大会、編集の予算使用状況が見る方が良いことから、予算委員会を作る
- 超音波医学会が公益法人化した際の情報について提供があった
- 公益法人化のタイムスケジュールについて確認した
 - 9 月の申請が認められれば 4 月に登記する
 - 予算は総会に諮る
 - 1 月の段階で計画の大枠を作成する
- 関連して以下の方針を決定した
 - 今年は 1 月決済とし、1 月半ばに書類を提出して貰う
 - 来年は 3 月 31 日決済の本部会計とする
 - 会計期の変更に伴い生じる問題点・懸念事項を問いあわせ、10 の理事会までに回答を貰う
 - 本部会計一本化について全部の支部の了解を取る
 - 公益化の利点について総会で理事長が説明する

19. ①編集委員会委員案承認の件（木村理事）

- 資料 27-2-19-①,②の説明があり、資料 27-2-19-②に記載の委員修正案が承認された

19. ②論文投稿及び審査状況について

- 資料 27-2-19-②の説明があった
- ABE 投稿規定の改定案が承認された
- 生体医工学投稿規定の改定について、以下の点を確認し了承した
 - 非会員の掲載料は 2.5 万円／項のままとする

- 準会員は会員に含まれる
- 会員の掲載料は2万円/項とする
- IPF取得のためのABEの宣伝について報告があった
- 英文投稿に対するコンサルトを含んだ英文校正について報告があった

20. 第54回大会報告について（岩田第54回大会長・監事）

- 資料27-2-20に基づき、報告が行われた

21. 第55回大会準備状況について（中村第55回大会長・北陸支部長）

- 資料27-2-21に基づき、報告が行われた
- 海外招聘について理事への推薦依頼があった
- 趣意書に関して、企業の観点から気がついた点があれば山森理事から連絡することとした

22. 第56回大会長について（山家理事）

- 10月の理事会に向けてこれから詰めることとした

23. その他

- 公益法人化に関わる運営体制・事務局支援に関連して、南部雅幸先生が推挙された。企業を立ち上げられていることから、業務委託の形で、仕様書の作成や資料提出の依頼、内規作成、アーカイビングなどの公益法人化に関わる作業全般支援について、半年間200万円（旅費などは別途支払）にて打診することとした。
- 10月の理事会では、CEの取り込みに関する戦略や、ME技術実力検定試験に新しい内容を入れているメカニズムについて議論することとした
- 生体医工学シンポジウムの2日目（9月26日）に、臨時で理事懇談会を開催することとした
- 次回の理事会は10月30日、次々回は1月22日に開催することとした